

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600192		
法人名	社会福祉法人愛生会		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	千葉県八千代市緑が丘2-17-1		
自己評価作成日	平成29年7月6日	評価結果市町村受理日	平成29年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成29年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の人員体制が落ち着いてきたことで、質を高める取り組みを開始している。職員の能力向上策としては、勉強会を定期開催を計画に取り込んでいる。また、会議・ミーティングの定例化により、情報共有が円滑になったり、共通の認識でケアに当たれるよう改善を始めている。
提供生活の質の面では、今年度は一人ひとりに希望を聞き、外出やレクリエーションなど個々の夢をかなえられるよう計画的に進めていくこととしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 東葉高速鉄道八千代緑ヶ丘駅から徒歩13分の、閑静な住宅街に立地した施設です。2階・3階はグループホーム、1階は系列の小規模多機能型施設が占め、勉強会・災害対策(避難訓練+備蓄)・イベントを合で行っており、昼食も近くにある本部の特養から届く等、効率的に運営しています。
2. サービス面では、理念「愛に生き幸せを創造する」を掲げ、職員は日頃笑顔で小まめに利用者の要望に応え、理念の実現に努めています。利用者は平均年齢88歳(90歳超5名)とかなり高齢者が多いにも拘らず、比較的元気に、明るく過ごしており、今回実施した家族アンケートでも好評です。
3. 開設後3年経過し職員の定着やスキルアップに努める等、運営が順調に軌道に乗って来ており、前年度の改善計画も半数以上実現している等、サービス改善・向上に熱心に取り組んでいる施設です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600192		
法人名	社会福祉法人愛生会		
事業所名	グループホームなごみ (ユニット:ひだまり)		
所在地	千葉県八千代市緑が丘2-17-1		
自己評価作成日	平成29年7月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	平成29年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の人員体制が落ち着いてきたことで、質を高める取り組みを開始している。職員の能力向上策としては、勉強会の定期開催を計画に取り込んでいる。又会議・ミーティングの定例化により、情報共有が円滑になったり、共通の認識でケアに当たれるよう改善を始めている。提供生活の質の面では、今年度はひとりひとりに希望を聞き、外出やレクリエーション等個々の夢をかなえられるよう計画的に進めていくこととしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (こもれび)	外部評価 (ひだまり、こもれびの2ユニット全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念に付け加えたもので、毎朝の朝礼時に唱和している。	グループホームとして理念「愛に生き幸せを創造する」を掲げ、「地域介護の助っ人」を第一に掲げる運営法人の運営理念・実施要綱と一緒に、職員は毎朝朝礼時に唱和し、確認・共有し、日頃のサービスで実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、イベントの告知などを町内会回覧板で行った。ボランティア活動の受け入れも実施。	自治会活動(清掃等)には積極的に参加しています。運営推進会議には、自治会長初め、地域の民生委員(数名)が参加する他、小規模多機能型施設と合同でボランティアを受け入れており、特に週1~2回の音楽療法(楽器演奏、歌、回想)では盛り上がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取り組みは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告に伴い、他施設での状況をフィードバックしてもらっている。お花見会場など地域の情報を聞き、外出に活用している。	年6回、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、介護相談員、利用者、家族、職員で、開催し、状況報告、事故報告、消防訓練、外部評価、活動報告、AED講習等について話し合っ、サービス向上に活かす様に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員や介護保険相談員の参加をお願いしている。 昨年度、新たな加算取得や定款変更などでの手続きがあり、相談をしながら進めている。	必要な都度、管理者は、市担当に報告し、相談しています。又地域包括支援センター職員や介護相談員に、必ず運営推進会議時に参加してもらい適切な意見・情報を受ける等、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はやむを得ず行っている。その他の拘束は行っていない。	車の交通量が多い道路に面している為、昼間も玄関の施錠をしています。身体拘束排除の方針を掲げ、職員は定期的な社内勉強会で、他の項目と一緒に修得する様にしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員へのアンケートや勉強会を基に「不適切なケア」との意識づけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価（こもれび）	外部評価（ひだまり、こもれびの2ユニット全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	取り組みは行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけ、分かりやすい説明を心掛けている。その他でも随時、問い合わせへの対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を実施し意見を徴収した。また、面会時などでも随時話を伺っている。	家族の訪問時や家族会（年2回、家族の6割位出席）、運営推進会議等で意見・要望を聞き、運営に反映させています。今回実施した家族アンケートでも、多数の家族が「よく話を聞いてくれ、対応してくれる」と好評です。利用者については、介護相談員に話を聞いてもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談を通じて、意見を聞くように心がけている。実際に部門計画にも反映した事項あり。	管理者は、就業時やミーティング時・会議時に職員の意見を聞いて、運営に反映する様に努めています。職員からも、「意見を言いやすい」「職場雰囲気が良い」等の声がありました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の面談を通じ、勤務状況の把握・評価を行うとともに、課題や期待を伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や法人内勉強会の開催を通じ、学習機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム部会へ職員も参加できるようにし、他施設の情報に触れる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価（こもれび）	外部評価（ひだまり、こもれびの2ユニット全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	レクリエーションや家事参加について戸惑いのある方もいるが、任意であることを伝え、安心して入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「外泊は可能か」「受診に付添は必要か」といった質問が多い中、家族に負担を掛けない、あるいは要望に沿う形での対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	夫婦二人暮らしからの入居を通じ、配偶者の不安がある中、併設の小規模多機能居宅介護の利用で二人の安心な生活創りを行った。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯など出来る事は行って頂き、職員の手助けとなっている。また、フロアの装飾なども共同で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望を伝え協力して実現できるよう努めている。 体調不良に対しての対応でも協力をしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への受診継続を希望される方には、施設往診医に限定せずに対応している。	約8割の利用者には、月1回～3回程家族の誰かが訪ねて来ていますが、遠方の為年1～2回の人もあります。年2回の家族会や運営推進会議等行事の時に訪問者が多くなります。利用者の中には家族と一緒に外出する人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩などを複数の方で同時に行う事で、触れ合いの機会を多く持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価（こもれび）	外部評価（ひだまり、こもれびの2ユニット全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ、本人・家族へのフォローが必要なケースはないが、次の入所施設への情報提供などで支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	レクリエーションへの参加など希望に合わせて、任意とすることで、意向を尊重している。	利用者の思いを聞き出し、海を見たいのであれば海まで車を走らせたり、買い物の希望があれば月2～3回程、一緒に外出したりすることもあります。利用者の思いや意向を聞き取り、対応している事が窺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所契約時やその後の面会などで、家族からの聞き取りを行っている。また、入所前に利用されていたデイサービスなどがあれば、過ごし方などを聞くようしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常記録を通じ能力などの把握・共有を図っている。散歩コースなども個々の歩行能力に応じ決めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、ご家族からの要望だけでなく、各スタッフの気づきなども内容に取り入れるよう意識している。	介護計画は、家族の訪問時の意見や職員、医療関係者からの意見を聞いて、計画作成者が新たな計画書を作成し、半年ごとにモニタリングしています。計画書についての家族の同意は、家族事情で郵送し、捺印をもらう人もあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を取り、情報共有を行っている。ミーティングにてケアの方針も話し、見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組みは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価（こもれび）	外部評価（ひだまり、こもれびの2ユニット全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特別な支援は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は嘱託医対応を基本としつつ、家族の要望に応じて、入所前からのかかりつけ医や他の専門医での対応も行っている。	全ての利用者が、年1回の健康診断や月2回の嘱託医の往診を受けることができます。他科受診、通院の場合は家族対応が基本ですが、職員も同行支援することもあります。救急搬送による病院受診は、年4～5回位あります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約・連携で実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者との打ち合わせの中で、退院受け入れ可能な状態についてや、退院時期などを共有し、早期の退院へ向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では終末期対応は困難であることを理解して頂いた上で、適切な環境への移行を前提としている。将来的な対応への整備が課題となっている。	昨年、急速に悪化した利用者の看取りを経験しましたが、終末期は、関連施設である特養への転居ができるようになっていて、当ホームでは看取り対応は基本的には行っていません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。また、自治会の防災班との協力の話も出ているが、協力体制構築には至っていない。	年に消防訓練2回(消防署立ち合い・自主)、災害訓練1回実施しています。消防設備は、スプリンクラー初め、各階に消火栓・ホースを2箇所備える等、万全を期しています。備蓄は5日分(水、米、ガスコンロ、カンテラ等)準備しています。	自治会への協力呼びかけを根気強く続ける事、訓練後の反省会開催、非常時持ち出し品リストへの利用者処方箋の追加が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価（こもれび）	外部評価（ひだまり、こもれびの2ユニット全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な言葉がけなどのアンケートを通じ、より高い質での対応を目指している。	利用者は、「さん」付けで呼ばれています。職員は、利用者へのマナーについてオリエンテーション時に指導しています。職員の言葉遣いが気になる場合は、管理者が個別に随時注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の外出やレク活動を伺いながら、実現できるよう取り組みを開始している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレク活動参加など、なるべくご本人の意思を確認しながら提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧レクを通じ、おしゃれを楽しんで頂けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け作業など無理なく出来ることを手伝って頂き参加意識を持っていただいている。食事内容でも嗜好を把握し、苦手なものを他の食材に変更している。	朝、夕食は、業者からメニューと共に半調理済み食材が届き、昼食は、近くの特養（本部）から栄養士の献立による調理品が届きます。2ヶ月毎に、運営法人理事長自らラーメンや冷やし中華等を屋台形式で振舞い、利用者を喜ばせています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が進まない方にゼリーを提供するなど、好みの形態で楽しんで頂けるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを個々の必要な介助内容で実践している。また、必要な方には歯科衛生士の口腔ケアも取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価（こもれび）	外部評価（ひだまり、こもれびの2ユニット全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を通じ、なるべくトイレでの排泄が出来るよう努めている。	利用者の排泄時期・回数を予測しながら利用者に不快な思いをさせない様に支援しています。布パンツ使用の自立している人は4名ほどいますが、失禁の為に困惑しない様に紙パンツやパッドをつけている人がほとんどです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤処方だけに頼らないように、提供する飲料を替えたり、オリゴ糖など自然食品での排便を促すといった取り組みをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	意思を尊重しながらも、清潔保持が出来るよう、週2回以上の入浴機会を設けている。	浴室には簡易リフト機があり、入浴日を決め週2回の支援をしています。利用者により、拒否や身体的都合で支援回数が増減する事もあります。3人ほど入浴するのが苦手な人もいて、職員が状況判断し、タイミングを合わせて誘導しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レク活動などへの参加を任意とし、疲れたら休むなど自由に過ごせるよう意識している。意思表示が難しい方には、状態観察を通じ提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を閲覧できるようにし、不安なく服薬支援が出来るようにしている。副作用と思われる症状があるときは、医師・薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみなどの家事や趣味活動などお好きな活動が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度の取組として、一人ひとりの希望を聞き、外出やレク活動に取り込んでいくこととしている。	毎日外を散歩したい人には、30分程職員が同行します。花見などユニット全員で近隣の公園に外出することもあります。これからは個別の外出レクとして好きな相撲観戦や喫茶店散策、神社詣でなどを計画しています。個別に随時家族との外出を楽しむ人もいます。	高齢でも歩行できる利用者が多いと思える施設です。施設内部の階段や廊下を利用して歩く支援をしています。が、外出可能な間に年間計画を立てる等して、利用者にしてできる限りの体験と思い出を作れるよう支援することが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価（こもれび）	外部評価（ひだまり、こもれびの2ユニット全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持の希望のある方は、紛失トラブルのない範囲の金額で所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所持のご希望のある方には対応している。携帯電話をお持ちでない方で、電話を希望される際には施設の電話を提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂ける装飾物を通じて、快適さを提供している。また、自身の作品などを展示することで満足感を高められるよう努めている。	リビング兼食堂は、畳の空間もあり、明るく、清潔で、ゆったりしており、利用者が快適に過ごせる様になっています。季節を表示する貼り絵、絵画、手作りカレンダー、行事写真等、生活感・季節感を感じます。利用者は、達成表（富士山・スカイツリーを目標に歩行毎シールを貼る）で、室内歩行を頑張っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置や着席位置の工夫により、快適な空間づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具などの持ち込みを依頼し、少しでも安心できる環境づくりを行っている。	室内は、ベッド・マット・洗面台・エアコン・カーテンが備付けで、清潔で適度の広さもあり、利用者が居心地良く過ごせる様に配慮されています。利用者によって、転倒防止の為、センサーを置いている部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に氏名を掲示したり、トイレなどの表示を大きくすることで、自身で認識をして移動できるよう配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (ひだまり)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念に付け加えたもので、毎朝の朝礼時に唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、イベントの告知などを町内会回覧板で行った。ボランティア活動の受け入れも実施。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取り組みは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告に伴い、他施設での状況をフィードバックしてもらっている。 お花見会場など地域の情報を聞き、外出に活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員や介護保険相談員の参加をお願いしている。 昨年度、新たな加算取得や定款変更などでの手続きがあり、相談をしながら進めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はやむを得ず行っている。その他の拘束は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員へのアンケートや勉強会を基に「不適切なケア」との意識づけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	取り組みは行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけ、分かりやすい説明を心掛けている。その他でも随時、問い合わせへの対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を実施し意見を徴収した。また、面会時などでも随時話を伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談を通じて、意見を聞くように心がけている。実際に部門計画にも反映した事項あり。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の面談を通じ、勤務状況の把握・評価を行うとともに、課題や期待を伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や法人内勉強会の開催を通じ、学習機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム部会へ職員も参加できるようにし、他施設の情報に触れる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	レクリエーションや家事参加について戸惑いのある方もいるが、任意であることを伝え、安心して入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「外泊は可能か」「受診に付添は必要か」といった質問が多い中、家族に負担を掛けない、あるいは要望に沿う形での対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	夫婦二人暮らしからの入居を通じ、配偶者の不安がある中、併設の小規模多機能居宅介護の利用で二人の安心な生活創りを行った。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯など出来る事は行って頂き、職員の手助けとなっている。また、フロアの装飾なども共同で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望を伝え協力して実現できるよう努めている。 体調不良に対しての対応でも協力をしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への受診継続を希望される方には、施設往診医に限定せずに対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩などを複数の方で同時に行う事で、触れ合いの機会を多く持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ、本人・家族へのフォローが必要なケースはないが、次の入所施設への情報提供などで支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	レクリエーションへの参加など希望に合わせて、任意とすることで、意向を尊重している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所契約時やその後の面会などで、家族からの聞き取りを行っている。また、入所前に利用されていたデイサービスなどがあれば、過ごし方などを聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常記録を通じ能力などの把握・共有を図っている。散歩コースなども個々の歩行能力に応じ決めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、ご家族からの要望だけでなく、各スタッフの気づきなども内容に取り入れるよう意識している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を取り、情報共有を行っている。ミーティングにてケアの方針も話し、見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組みは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特別な支援は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は嘱託医対応を基本としつつ、家族の要望に応じて、入所前からのかかりつけ医や他の専門医での対応も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約・連携で実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者との打ち合わせの中で、退院受け入れ可能な状態についてや、退院時期などを共有し、早期の退院へ向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では終末期対応は困難であることを理解して頂いた上で、適切な環境への移行を前提としている。将来的な対応への整備が課題となっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。また、自治会の防災班との協力の話も出ているが、協力体制構築には至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価（ひだまり）		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な言葉がけなどのアンケートを通じ、より高い質での対応を目指している。 金銭管理を気にかけている方には、銀行で預かっていると繰り返し説明し安心して頂くよう努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の外出やレク活動を伺いながら、実現できるよう取り組みを開始している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレク活動参加など、なるべくご本人の意思を確認しながら提供している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧レクを通じ、おしゃれを楽しんで頂けるよう努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け作業など無理なく出来ることを手伝って頂き参加意識を持っていただいている。食事内容でも嗜好を把握し、苦手なものを他の食材に変更している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が進まない方にカルピスを提供するなど、好みの形態で楽しんで頂けるよう努めている。（糖尿病の方もいるが、医師と相談しつつ、水分確保を優先して対応している）			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを個々の必要な介助内容で実践している。また、必要な方には歯科衛生士の口腔ケアも取り入れている。			

自己	外部	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を通じ、なるべくトイレでの排泄が出来るよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤処方だけに頼らないように、提供する飲料を替えたり、オリゴ糖など自然食品での排便を促すといった取り組みをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	意思を尊重しながらも、清潔保持が出来るよう、週2回以上の入浴機会を設けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レク活動などへの参加を任意とし、疲れたら休むなど自由に過ごせるよう意識している。意思表示が難しい方には、状態観察を通じ提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を閲覧できるようにし、不安なく服薬支援が出来るようにしている。副作用と思われる症状があるときは、医師・薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみなどの家事や趣味活動などお好きな活動が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度の取組として、一人ひとりの希望を聞き、外出やレク活動に取り込んでいくこととしている。毎日の散歩を日課としている方に付添で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価（ひだまり）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持の希望のある方は、紛失トラブルのない範囲の金額で所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所持のご希望のある方には対応している。形態電話をお持ちでない方で、電話を希望される際には施設の電話を提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂ける装飾物を通じて、快適さを提供している。また、自身の作品などを展示することで満足感を高められるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置や着席位置の工夫により、快適な空間づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具などの持ち込みを依頼し、少しでも安心できる環境づくりを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に氏名を掲示したり、トイレなどの表示を大きくすることで、自身で認識をして移動できるよう配慮している。		